

終了報告書(3ヵ月未満用)

(報告年月日

2017年10月13日)

留学プログラム名	TKT CAMPUS Asia		
所属(本学)	生命理工学部 生命科学科 生命情報コース		
学籍番号	15B08924	現在の学年	学部3年
留学先国	大韓民国		
留学先大学	KAIST		
留学期間	2017年8月27日～2017年9月15日		
	卒業予定: 2019年3月		

報告書について

- 1) 報告書の様式は任意です。研究室等提出用に作成した報告書、留学中に作成した個人のHPがあれば、それを代わりに提出することができます。ただし、下記の内容が含まれている必要があります。
- 2) 提出先: campusasia@jim.titech.ac.jp (WORD ファイルにてお送り下さい。)

報告書内容

- ① 留学先(参加プログラム/受入れ機関)の概略
- ② 留学前の準備
留学情報の入手方法、専門分野・語学の準備方法、留学先の研究室に所属した場合は、留学先大学の指導教員との準備、ビザ取得方法、住居の探し方など
- ③ 留学中の活動及び感想
通常の活動以外に行った活動がありましたら、併せて記入してください。
- ④ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード
他国の学生等との交流、海外における勉学・研究等の学校生活や日常生活を経験して、自身の成長を実感したことと思います。留学前に立てていた目標に対する達成度や苦労話など、何でも結構ですので、自身の成長を実感した中で一番記憶に残っているエピソードを教えてください。
- ⑤ 留学費用
渡航費、プログラム参加費、生活費、住居費、保険料、奨学金の有無など。
- ⑥ 留学先での住居
住居(寮、ホームステイ等)、申し込み方法、ルームメイト、その他
- ⑦ 留学先での語学状況
例えば、留学期間中は〇〇語を使用。留学前の TOEFL 等語学試験は、〇〇だったが、十分であったなど。
- ⑧ 単位認定
留学中に取得した単位の認定を東工大で行ったか(行う予定か)?
- ⑨ 留学経験を今後、どのように活かしたいか
- ⑩ 留学先で困ったこと(もしあれば)
- ⑪ 留学を希望する後輩へアドバイス

1. 留学の概要

TKT CAMPUS Asia (日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム)のうち、KAISTの“Research Oriented Program”に参加しました。このプログラムでは、KAISTの研究室に所属し研究活動を行うことができます。私は Department of Biological Sciences の研究室に3週間所属し、神経細胞に関する実験チームに加わりました。9月からは週2回の韓国語の授業も受講しました。

2. 留学前の準備

■ ビザ取得

私は“D-2-8 Short-term Exchange Student Visa”を申請しました。ビザ取得に必要な書類のほとんどは、KAISTのコーディネーターさんが準備してくださいました。私の場合、金曜日にビザ申請を行い、翌週の火曜日に受け取ることができました。申請中はパスポートを領事館に預ける必要があります。

■ 受入先研究室との連絡

プログラムの申し込み時に、自分の興味のある分野の研究室を5つリストアップしたところ、KAISTのコーディネーターさんがその中から受け入れ可能な研究室を手配してくださいました。私は第一希望の研究室に所属することができました。研究室が決定するまでには3週間ほどかかりました。研究室が決定した後は、KAISTの教授にメールで連絡をとり、研究内容について相談しました。

3. 留学中の活動

■ 研究室

私は Kim Eunjoon 教授の研究室 “Synaptic Brain Dysfunctions Lab” に所属しました。この研究室では、神経細胞におけるシナプス接着分子をターゲットに、自閉症や統合失調症といった精神病のメカニズムの解明や、新しい治療法の確立を目指した研究を行っており、私も実験チームの一員として参加することができました。研究を進めるにあたって必要な基礎的知識の導入から、実験で使用する遺伝子改変マウスの管理、遺伝型の特定、ノックアウトマウスの社会的行動や脳疾患の発病率の追跡などを行いました。新しい知識や実験手順を覚えるのは大変でしたが、分からないことを調べるたびに理解が深まり、実験スキルも身についていくことを実感しました。東工大の授業で習得したことを、実際の研究に応用することができたことも嬉しかったです。英語での研究ディスカッションに参加することができ、英語力にも自信がつけました。研究の現場というのを学部3年生で、英語漬けで、体験できたのは本当に貴重な経験でした。



左：Munji Campus マウスを飼育する施設。Main Campus から車で15分ほど。

右：Main Campus 研究室や寮がある場所。

■ 授業

韓国語の初級クラス（19：00～21：50）を週2回受講していました。夕方まで研究室で活動した後に約3時間の授業を受けるのは大変でしたが、授業に参加する度に新しい韓国語を学ぶことができ、それを実生活ですぐに応用できる楽しさが良いモチベーションとなりました。一緒に授業を受けるクラスメイトも海外からの留学生だったので、韓国での生活やお互いの国の文化などについても語り合うことができ、とても楽しかったです。初回の授業はハングルの読み方から教えていただけるので、韓国語の勉強をしたことがない私でも安心して始めることができました。

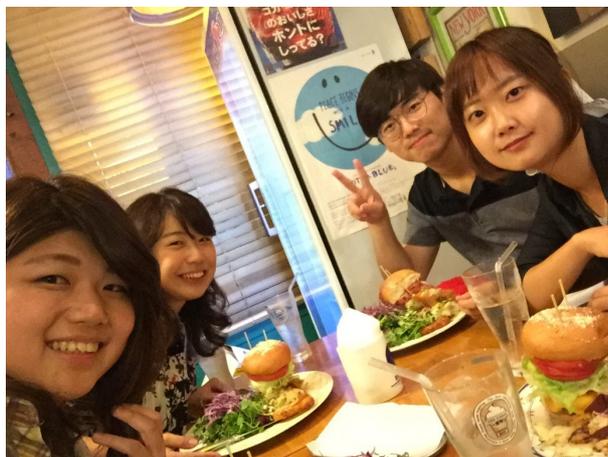


韓国語の Lee 先生と授業の最終日に。優しく丁寧な授業が大好きでした。

■ 休日

最初の週末は KAIST の留学生の紹介で、Daejeon のバレーボールクラブに参加することができました。クラブのメンバーは高校生から社会人までと幅広く、バレーをしながら多くの方とお話できる良い機会になりました。スポーツを通じて交流を深めることができ、現地の新しい友達が増えました。

KAIST の“Buddy Program”のパートナーも Daejeon を案内してくれました。水族館や市場を巡り、Daejeon で有名な伝統料理のお店へ連れて行ってくれました。現地の友達の存在が本当に心強かったです。



左：KAIST の Buddy Program でパートナーとなった友人と一緒に Daejeon のカフェへ。

右：CAMPUS Asia で東工大に留学していた KAIST の友人とも再会。

翌週は研究室の方が Seoul を案内してくださいました。研究室の方の家族と一緒に、Seoul の世界遺産や観光スポットを訪れました。Seoul の訪問を歓迎してくださりととても嬉しかったです。幸運にも、韓国の伝統的な結婚式に招待していただき、その様子を見学することができました。



左：韓国の伝統的な結婚式。貴重な体験でした。

右：世界遺産の昌徳宮で。Seoul を一日かけて案内してくださいました。

翌日は KAIST の ISSS (International Scholar and Student Services) 主催の Field trip で Jeonju を訪れました。Jeonju は歴史ある地区で、美しい伝統的街並みを見学することができました。歴史を学びながら、美味しいビビンバも食べ、楽しい 1 日を過ごすことができました。



左：Jeonju で有名なビビンバを囲んで。

右：韓国の伝統衣装「韓服」に身を包んで街巡り。

4. 留学費用

CAMPUS Asia の手厚いサポートのおかげで、留学にかかる費用は奨学金でほとんどカバーすることができました。韓国語の授業料、テキスト代、Field trip 代も KAIST から支給されました。

渡航費：往復 44,000 円（東工大より支給）

食費：10,000～15,000Won/日

住居費：寮費 165,000Won+bedding expenses 50,000Won

保険料：8,138 円（AIU 損害保険 B プラン+危機管理サービス）

奨学金：800,000Won

5. 寮

私は Main Campus の Narae Hall (W6) に滞在しました。研究室から徒歩 10 分ほどの場所だったので、大変便利でした。この寮は留学生が多いようで、ラウンジなどでは様々な言語が飛び交っていました。寮にはジム、コンビニのほか、洗濯機、乾燥機、ウォーターサーバーがあり、快適に過ごすことができました。オンキャンパスだったため、Wifi も利用できました。時々接続が悪くなることもありましたが、無料で利用できるのが助かりました。

私の部屋は二人部屋で、最初の週は一人で生活していました。二週目以降はカナダから来た学生とルームシェアしました。ルームメイトと一緒に食事をしたり、お互いの国や将来の夢などについて語り合ったりして、研究室から帰った後も充実した時間を過ごすことができました。寮に戻っても英語で会話できる生活は本当に良い環境でした。

6. 食事

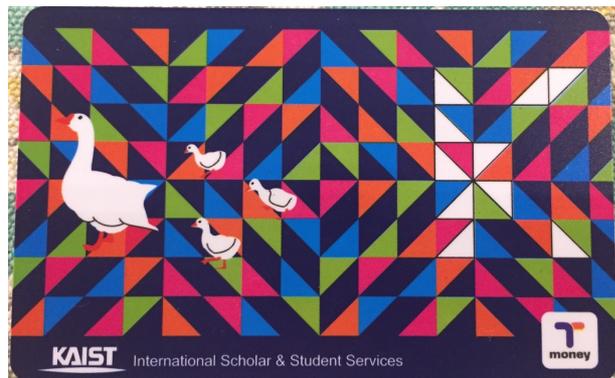
キャンパス内のカフェテリアやキャンパスからすぐ近くのレストランで食事することが多かったです。キャンパス内には多くのカフェテリアがあり、韓国料理はもちろん、日本料理や中華料理なども充実していました。カフェテリアなら一食 3,500～5,000Won ほどです。支払いは現金でも可能ですが、クレジットカードやデビットカードがあるとスムーズで便利でした。キャンパスの外にも多くのレストランがあり、現地の学生に案内してもらいながら、毎回違うお店やメニューを試していました。



左：本場のサムギョプサル！辛い食べ物には少しずつ慣れていきました。
右：日本食レストランで親子丼（？）を注文。（7,000Won）

7. 交通

韓国にも T-Money と呼ばれる、Suica や Pasma と同じような交通系 IC カードがあります。KAIST の留学生は KAIST オリジナルの T-Money カード（3,000Won チャージ済み）をいただくことができました。地下鉄やバスに乗る時には、この T-Money カードを利用すると大変便利です。



KAIST オリジナルデザインの T-Money カード。

韓国のタクシーや高速バスは日本よりも安く利用できました。

- ・ 金浦空港～Government Complex(KAIST 近くのバス停)：バス 14,300Won
- ・ Government Complex～KAIST：タクシー 3,900Won

※タクシーの運転手さんと英語でやりとりするのは難しかったです。事前に目的地を韓国語で書いた紙を用意すると安心です。

週末にソウルへ行った際にはKTXを利用しました。高速バスと比べると高いですが、目的地まで快適に過ごすことができました。

- ・ Daejeon Station～Seoul Station：KTX 23,700Won

8. 留学先での語学状況

研究留学するのは初めてだったため、専門分野の英語力まで十分かどうか不安でしたが、いざ研究を始めてみるとそれほど問題なく理解することができました。(私の専門分野がバイオロジーだったことも関係しているかもしれませんが。)英語で研究を進めることで、むしろ論文も読みやすくなりました。分からないことが出てきても、英語でやりとりして学ぶことができるので、英語力を伸ばすためには最高の環境だったと思います。

9. 単位認定

生命理工学部の「生命海外研修第二」(2単位)を申請しました。これは海外で生命に関する研究活動やインターンシップを行った際に認定される科目です。

10. 感想

私は東工大の授業の都合上、3週間の留学となってしまいましたが、もし時間が許すのであれば、もっと長期で研究を続けたいと感じました。本当に多くの方が韓国やKAISTに来たことを温かく迎えてくださり、親切にしてくださいました。海外での生活は慣れないことが多く、不安になることもありますが、現地の友達や研究室のみなさんのおかげで、韓国での滞在を楽しむことができました。留学先の大学にサポートしてくれる方がいるだけで、どれほど心強いかということを実感しました。優しく声を掛けてくれる人の存在が、心の距離をぐっと縮ませてくれました。帰国後は、韓国の友達や研究室の方が助けてくれたように、私も東工大の留学生のサポートができればと思いました。

このプログラムに参加し、Kim Eunjoon 教授の研究チームに加わることができて本当に良かったです。神経科学の研究はやはり興味深く、本気で取り組みたい分野だと感じました。専門知識、研究スキル、英語力、どれも今後の学生生活でさらに磨きをかけていきたいと思います。

11. 留学を希望する後輩へアドバイス

CAMPUS Asia の魅力的な点は、協定校同士のプログラムであるため、研究室配属の手続きやビザの申請がスムーズで、留学期間を自由に設定できるところにあると思います。私は今回の留学費用は全て自分で用意しようと思っていたため、奨学金のサポートが手厚いところも大変助かりました。将来やりたいことが決まっている人もそうでない人も、海外で授業や研究に励むことで、新たな目標や夢が見つかると思います。それが、次のステップへと歩み出す自信や勇気につながると感じました。新しい人々や環境との出会いが、今後の学生生活や人生をより豊かにし、かけがえのない財産となると思います。私は CAMPUS Asia のおかげで、学部3年生のうちから海外での研究を体験することができ、将来の夢に向けた新たなモチベーションが生まれました。CAMPUS Asia の留学に関して質問などがありましたら、いつでもご連絡ください。